

## 平成 24 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

## 1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保ならびにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関等が協議・連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 20 年度には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップ等を実施し、平成 21 年 3 月、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」の策定に至った。

平成 24 年度においては「総合連携計画」に則り、以下の事業を実施した。

## 2 平成 24 年度の事業内容

## (1) 活性化協議会の開催

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	6 月 4 日	13 人	1 人	・ 役員の選出 ・ 平成 23 年度事業経過報告・収支会計決算報告 ・ 平成 24 年度事業計画、収支会計予算
第 2 回	3 月 25 日	12 人	2 人	・ こいこいバス、支線交通の運営状況の報告 ・ バスエコファミリーキャンペーンについて ・ こいこいバス車内広告について ・ 障害者割引制度について

【事業費】 報償費 75,000 円 (@5,000 円×15 人)  
食糧費 2,900 円

## (2) 幹線交通検討分科会の開催

こいこいバス利用状況の検証と、一層の利用促進を図るため、分科会を 1 回開催した。バスエコファミリーの恒例化、車内広告、障害者割引制度について協議し、事業推進に取り組んだ。

【事業費】 食糧費 400 円

## (3) 広報紙による啓発記事掲載

市発行の「広報おおたけ」に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】 印刷製本費 280,000 円 (@1.6 円×14 ページ×12,500 部)

#### (4) こいこいバス（コミュニティバス）の運行

平成21年10月から実証運行を続けてきたが、平成24年4月から本格運行へ移行するとともに、低床車両を導入した。ファミリー層への利用促進を図るため、11月に「バスエコファミリーキャンペーン」を実施し、こいこいバスについては土日・祝日に大人同伴で利用する小学生を無料で利用できるようにした。

利用者数及び収益率は増加傾向にあり、平成26年度の目標(1便6人、収益率50%)を達成し、順調に推移している。

【受託者】	(有)大竹交通、(有)大竹タクシー
【運行期間】	平成24年4月1日～平成25年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅～JR玖波駅（全長：8.0km 停留所：19か所）
【運行便数】	平日：34便 土日祝日：32便
【利用者数】	84,598人（平均値：232人/日 6.95人/便）
【運行経費】	25,960,000円 ※2台運行
【事業収入】	15,742,106円（収益率：60.6%） { 運賃収入：15,510,266円 ベンチ広告収入：231,840円
【補助金額】	10,217,894円
【関連事業費】	回数券印刷：34,650円 バスエコファミリー：5,700円 ※小学生無料分補てん。 代替タクシー借上：1,920円 ※JR踏切事故に伴う代替。

#### (5) 三ツ石地区乗合タクシーの本格運行

運行開始当初から常に収益率は40%を越え、平成24年4月から本格運行となった。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成24年4月2日～平成25年3月29日
【運行区間】	三ツ石地域～ゆめタウン大竹または市役所
【運行便数】	毎週月・火・金 11便/日
【利用者数】	1,593人(946台) 平均値：1.68人/便
【運行経費】	851,400円 (@900円×946台)
【運賃収入】	362,041円（収益率：42.5%）
【補助金額】	489,359円

(6) ひまわりタクシー（玖波7・8丁目）の実証運行

玖波7・8丁目合同で運行協議会を設立した。試験的に9月から早朝及び夕方を増便した。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成24年4月2日 ~ 平成25年3月29日
【運行区間】	玖波7・8丁目 ~ JR玖波駅または広島西医療センター
【運行便数】	毎週 月・火・金 9便/日
【利用者数】	1,029人(678台) 平均値:1.52人/便
【運行経費】	590,800円 (@800円×194台+@900円×484台)
【運賃収入】	217,170円 (収益率:36.8%)
【補助金額】	373,630円

(7) 湯舟のりあいタクシーの実証運行

運行開始当初から利用状況が芳しくないため、利用状況や改善点を把握するために全世帯アンケートを実施した。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成24年4月2日 ~ 平成25年3月29日
【運行区間】	湯舟地区 ~ JR玖波駅または広島西医療センター
【運行便数】	毎週 月・火・金 10便/日
【利用者数】	106人(89台) 平均値:1.19人/便
【運行経費】	53,400円 (@600円×89台)
【運賃収入】	17,664円 (収益率:33.1%)
【補助金額】	35,736円

(8) 栄ぐるりんバスの実証運行

支線交通としては唯一の定時定路線型のバス運行であるが、利用は芳しくない。10月からこいこいバス利用者・栄ぐるりんバス利用者・サントピア大竹利用者・栄地区住民の方を対象に聞き取りやアンケートを実施した。アンケート結果を踏まえ、運行委員会で運行ルート・運行日を検討している。

【受託者】	(有)大竹タクシー		
【運行期間】	平成24年4月2日～平成25年3月29日		
【運行区間】	JR大竹駅～サントピア大竹～南栄2丁目～青木住宅 (全長：8.6km 停留所：19カ所)		
【運行便数】	毎週 月・水・金	11便/日	
【利用者数】	1,929人 (平均値：12.3人/日 1.13人/便)		
【運行経費】	4,952,888円		
【運賃収入】	362,600円 (収益率：7.32%)		
【補助金額】	4,590,288円		
【関連事業費】	停留所表示板作成	43,050円	
	車両表示板作成	44,100円	
	臨時運行	34,650円	(9/16：91人利用)
	無料運行	25,600円	(2/11：141人利用)

(9) バスエコファミリーキャンペーンについて

平日に比べて土日の利用者が少ないことから土日祝日の利用を促進するとともに、モビリティマネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを恒例の行事とした。

【事業費】	小学生分補てん	5,700円	(57人分)	《再掲》
				平成23年度：29人、平成24年度：57人

(10) 車内広告について

こいこいバスの広告掲載スペースを有料(1枠1,050円/月)で募集することとした。サイズはB3サイズ(横長)とB4サイズ(縦長)で、B4サイズは市の掲載スペースとした。

1台あたりの広告掲載枠数：B3サイズ5枠、B4サイズ2枠

(11) コミュニティバス時刻表掲載折込チラシについて

(株)フロンティアエージェンシーから広告収入でコミュニティバスの時刻表、路線図を掲載したチラシを作成したいとの申し出があり、了承した。「こいこいバス」「栄ぐるりんバス」「大竹・栗谷線」「坂上線」の時刻表及び一部の路線図を掲載し、中国新聞の折込チラシとして配布した。

(12) 平成 24 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するにあたり、専門的知識・ノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

【受託者】	(株)地域未来研究所中国四国事務所
【業務名】	平成 24 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務
【履行期間】	平成 24 年 6 月 25 日 ～ 平成 25 年 3 月 23 日
【主な業務内容】	○こいこいバスの運行の検証 ・利用実態把握アンケート調査の実施 ・本格運行の検証 ・ロゴマーク決定に伴うチラシ等のデザインの修正 ○三ツ石地区乗合タクシーの運行の検証 ・利用者数の推移, 課題・改善策の整理 ○栄ぐるりんバスの運行の検証, 利用促進策の検討 ・車両マグネットデザイン等の作成 ・ニーズ把握調査 ・利用者数の推移, 課題・改善策の整理 ○ひまわりタクシーの運行の検証, 利用促進策の検討 ・利用者数の推移, 課題・改善策の整理 ○湯舟のりあいタクシーの運行の検証, 利用促進策の検討 ・ニーズ把握調査 ・利用者数の推移, 課題・改善策の整理 ○大竹・栗谷線の利用状況の整理
【事業費】	2,000,000 円

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成 23 年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成 24 年度はこいこいバスと支線交通の計 5 路線を対象とし、運営経費の財源として活用する予定である。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金
【造成日】	平成 24 年 3 月 29 日
【基金額】	105,000,000 円
【再編交付金額】	102,585,000 円
【事業年度】	平成 24 年度 ～ 平成 28 年度
【繰出金】	平成 24 年度 14,236,447 円 (予定)